



関宮学園

令和4年度
-3月号-
発行 2/24

6年生部活動紹介 2 / 16

来年度に向けて、6年生部活動紹介を行いました。それぞれの部が自分たちの活動をアピールしました。どの部に入るのかももう決めている子、迷っている子。もう決めている6年生は3月に活動をスタートします。



前期課程授業参観 学校運営協議会 2 / 20

本年度最後の授業参観(前期課程)を行いました。同日に、学校運営協議会(学校関係者評価委員会)を開催しました。1年間の成長を見ていただくとともに、来年度につながる会となりました。



道徳と倫理

俳優の吉岡里帆さんが主宰となって、テーマごとに3冊の本を紹介する「理想的本箱」(NHK)という番組がありました。テーマ「人に優しくなりたいときに読む本」で、「手の倫理」(伊藤亜紗著)が紹介されました。

英語では「touch」ですが、日本語には「さわる」「ふれる」と2つの触覚に関する動詞があります。「傷口にさわる」「傷口にふれる」「恐くてさわれない」「逆鱗にふれる」「神経にさわる」「外気にふれる」など。そこに微妙なニュアンスを感じ取っています。哲学の立場から言うと、「ふれる」は相互作用的であり、「さわる」は一方的であるというように、本書では「触覚」と「倫理」についての考察が述べられていきます。

本の中に、道徳と倫理の違いについて述べられている章がありました。「道徳」と「倫理」は同じ意味で使われることが多いけれど、区別をつける立場を取る専門家は「できるか、できないか」が問題になると言います。「困っている人がいたら、助けるべきである」「本当のことを包み隠さず話すべきである」など、道徳では「すべきこと」は「できること」で、しなかったことを非難されます。しかし、実際には「すべきだが、できない」ことがあり、そのジレンマが倫理の領域なのだと思います。「嘘をつくべきでないことは分かっている。でも、真実を話すことは彼女を傷つけてしまうことになるから、少なくとも今の私にはできない。」など、私たちは、「すべきだができない」状況にしばしば陥ります。倫理には「悩み」や「迷い」がつきもので、「価値について考え抜くこと」が含まれているのだそうです。

卒業する9年生のみなさんは、4月から広い世界に一步踏み出します。悩み迷い、考え抜いて、よりよい生き方を選択して行ってほしいと願っています。

関宮学園 HP <http://yabuboard.ed.jp/sekinomiyagakuen/>

